収第 1 号
令和 8.10.28 日
加賀市
(企画課)

令和 8 年 10 月 28 日

加賀市長　山田　利明　様

加賀市ビジョン策定委員会
委員長　三　浦　雅　一

加賀市ビジョンの策定について（答申）

令和 8 年 7 月 30 日付発加企第 42 号で諮問のあった加賀市ビジョンの策定について、検討した結果、別添「加賀市ビジョン」（案）のとおり答申します。

なお、審議の経過及び計画の推進にあたって留意すべき事項を下記のとおり申し添えます。

記

1　審議の経過

(1)　第 1 回会議

①　日時

令和 8 年 7 月 30 日(木)　14 時～

②　会議内容

・加賀市ビジョンの概要と今後の進め方について
・加賀市の現状と課題について
・加賀市ビジョンの理念体系（案）について

③　主な意見

・ビジョンの実現のため、重点目標、重点項目、KGI、KPI を設定し、評価すべき。
・ビジョン策定において、SWOT 分析をお願いしたい。
・最低限度の基金残高を維持しつつ、行政サービスが低下しない市政運営のため、ビジョン策定が必要。
・新産業を誘致することも大事だが、既存産業をどうしていくかも大事。
・移住者や交流人口を増やすことも重要だが、将来を見据えて流出人口を減らす取組を考えることも必要。
・人口減少など、市民に市の現状を知られていないため、こういった市の現状を知る機会をもっと作っていったら良い。

(2) 第2回会議

① 日時

令和8年8月20日(木) 14時～

② 会議内容

・第1回策定委員会の振り返り
・加賀市のSWOT分析について
・加賀市ビジョンの骨子(案)について
・加賀市ビジョンのKGI・KPI設定について

③ 主な意見

・加賀市の強みとして、祭りの文化を取り上げてほしい。
・北陸新幹線はプラス要因でもあるが、関西圏からの誘客の面で、脅威にもなる。
・インバウンドによる高付加価値観光需要の拡大については、加賀温泉郷の魅力を充実できるような内容で、他の自治体と差別化した観光戦略とすべき。
・分散型のまちだからこそ、各地域の特色ある自治や市民力を高める機会と捉えるべき。
・若い世代が定着、移住するための支援や仕組みがあると良い。
・デジタル田園健康特区の指定については、期待される効果などを市民があまり知らないと思うので、まず市民に対して丁寧に説明すべき。
・強みとして大聖寺十万石城下町を入れてはどうか。多極分散型都市構造について、大聖寺を軸とすることで他拠点とも結びつきやすい。
・空き家対策については、民間事業者と連携して街を活性化していくという意気込みで取り組むと良い。
・人口減少を前提にまちづくりをしていかなければならない。生活の質の向上を最重点として目指していくべき。
・加賀市の強みや弱み、チャンスや脅威をどう生かして、どう抑えるかは加賀市がどこを目指すのか、戦略を考えるうえで重要。
・総花的なビジョンに見える。どのような方向性としたいのか見えにくい。

(3) 第3回会議

① 日時

令和8年9月3日(木) 14時～

② 会議内容

・第2回策定委員会の振り返りと本日の策定委員会について
・加賀市ビジョン素案について

③ 主な意見

・「ウェルビーイング」について、市民目線では分かりにくいので、表現を見直すべき。
・若者から暮らす場所として選ばれるまち」について、「暮らす場所」だけでなく、「働く場所」も追加したらどうか。

・重点テーマの概要も含めて趣旨や意図が分かるので、概要は見える形としてほしい。
・「地域の歴史・文化資産と伝統芸能を守り」の記載について、伝統産業も含めた書き方をしてほしい。
・農業、漁業、林業などの一次産業も加賀市にとって素晴らしい資源だと思うので、市民に説明できる形で示してほしい。
・加賀温泉駅南側エリアの開発には様々な意見があると思うが、このビジョンは推進の方針で行くということでよいか。
・ライフデザインとは、それぞれが自分らしく生きていけるような学びや選択ができ、それぞれの人生をイメージしたものを描くというものなので、「自分らしい」という書き方にした方がよい。
・全国的に学生の地域移行という大きな問題があり、加賀市では交通手段などの課題によってその推進が滞っていると感じていたが、「放課後においても子ども主体の学びの場を広げる」の記載があり、推進されることが見込まれるため、安心した。
・暮らしの安全は、基本は市民だと思うが、観光都市として、観光客を対象とした側面も含めることができないか。

(4) 第4回会議

① 日時

令和8年10月1日(木) 14時～

② 会議内容

・第3回策定委員会の振り返りと本日の策定委員会について
・加賀市ビジョン素案について

③ 主な意見

・デジタル田園健康特区に指定されているので、DXやGXが施策・事業とどのように関わり、これを推進していくかを参考資料などに明記すべき。
・若者が期待されているという思いがビジョンにつながっていくということをはっきりと示していくべき。
・市が主体となって、中学生に加賀市の魅力を教え、生徒自身で考えることができるような授業ができたら良い。
・「地域の活力を育みます」と「こども・若者の学びと成長を支えます」も「地域資源の価値を高めます」と「暮らしの安心安全を支えます」と同じくらい重要であり、均等配分で表現すべき。
・イラストですべてを表現せずに写真も使っていくべき。
・目指す姿のイラストについて、各地区のにぎわいよりも、加賀温泉駅中心のにぎわいを重視し、効率的なまちにするというメッセージが感じられ、誘導的に感じる。
・加賀市ビジョンは2030年度までの計画期間なので、タイトルも「加賀市ビジョン2030」にしたほうが良いと思う。

・イラストはあくまで文章の補完のため、記載している文章との関連があればどのようなものでも問題ないとは思う。加賀市とかけ離れた表現はよくないと思うのでその点は注意が必要。

(5) 第5回会議

① 日時

令和8年10月23日(金) 14時～

② 会議内容

・第4回策定委員会の振り返りと本日の策定委員会について
・パブリックコメント・タウンミーティングで寄せられた意見と回答案について
・加賀市ビジョン（案）について
・答申（案）について

③ 主な意見

・意見公募の結果については、提出者数だけでなく、1人当たりの意見件数など、提出状況の内訳も示した方がよい。
・「具体性に欠ける」との意見が多く寄せられたことから、ビジョンの基本的な考え方をはじめに分かりやすく示す必要があったと考えられる。今後は、ビジョンの趣旨や役割について、市民の理解が深まるよう、丁寧な説明と周知に努めていく必要がある。
・冒頭の「はじめに」については、ビジョン策定の背景や必要性を市民に理解してもらうために重要な箇所だが、文字が小さく、十分に目立っていない。文字の大きさやレイアウトを工夫し、より目立つ形で示すべき。
・市民に配布する加賀市ビジョンの冊子には、二次元コードを掲載し、読み取ることで地域の活動やその参加方法などを確認できる仕組みを設けてはどうか。ビジョンを読んで終わりにするのではなく、市民が具体的な行動や地域活動への参加につなげられるよう工夫することが重要だと思う。
・イラストは現実感に乏しく、絵空事のような印象を受ける。実際に存在する施設や風景などは、写真を活用した方がよい。
・重点テーマ「地域のつながりを育むとともに、スポーツの機会を創出し、多様な人の交流を広げます」については、スポーツだけでなく、文化活動も地域のつながりや交流を育む重要な要素であるため、記載に加えるべきではないか。

2 ビジョンの推進にあたって、留意すべき事項

(1) 分散型のまちとして、各地域の特色ある自治や市民力を高め、地域の担い手や活動を後押しする施策を検討すること。
(2) 加賀温泉郷の魅力を充実できる、他の自治体と差別化した観光戦略を講じること。
(3) 新産業創出と既存産業の振興をバランス良く行うこと。
(4) デジタル田園健康特区については、期待される効果などを市民に対して丁寧に説明しつつ、

加賀市の強みとして上手く活用していくこと。

(5) 若者が加賀市に定着する施策を検討すること。

(6) 加賀市への定住を促進するため、生活の質の向上を図ること。

(7) 人口減少を前提としたまちづくりを検討すること。

(8) 市民と行政の共創によるまちづくりのために、市民が市の具体な現状を知ることができるような情報発信に留意すること。

(9) ビジョンを基に、市民の満足度をあげつつ、歳入と歳出のバランスを保った施策となるよう選択と集中を行うこと。

(10) ビジョンが実現できるよう、適切に進捗確認や見直し、改善を行うこと。

(11) ビジョンの趣旨や役割について、市民の理解を深められるよう、分かりやすく丁寧な説明と周知に努めること。

以上